

令和6年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上（○）・道徳教育（ ）・キャリア教育（○）・特別活動（ ）  
カリキュラム・マネジメント（○）・その他（ ）（内容： ）

2 学校の概要

（単位：人）

| プロジェクト地域  | 芦北町立田浦中学校区 |     |       |       |
|-----------|------------|-----|-------|-------|
| プロジェクト校   | 児童生徒数      | 教員数 | 校長名   | 研究主任名 |
| 芦北町立田浦小学校 | 143人       | 14人 | 緒方 尚哉 | 藤澤 卓也 |
| 芦北町立田浦中学校 | 72人        | 14人 | 山下 暢子 | 福溝 紀子 |

3 研究主題

「自己を見つめ、自ら学びに向かう児童・生徒の育成」  
～児童・生徒が主体的にコミュニケーションを図ることができる授業づくりを通して～

4 研究主題設定の理由

田浦中学校区では、令和4年度にコミュニティ・スクールを立ち上げ、「自己肯定感の高まりを実感できる子どもの育成～すべての教育活動をとおして～」を校区目標として設定し、合同校内研修を実施しながら学力向上や豊かな心の育成に連携して取り組んできたところである。

また、本校区は幼い頃から入れ替わりの少ない小集団で過ごすことから、人間関係が固定化しやすく、主体性や自信の根本となる自己肯定感が低いことが課題である。

このような課題を受け、これから予測困難な社会を生きる子どもたちに、自ら未来を創り出していくために必要な資質・能力を育むことが必要であると考え、上記の研究主題を設定した。

5 研究の具体的な取組内容の実際

(1) 学ぶプロジェクト

ア 自己肯定感を高める授業の工夫・改善

①田浦小中連携学習スタイルの作成（わくわく授業の約束）

②授業改善：導入の工夫と学習課題の設定

主体的にコミュニケーションを図る授業の提案（小学校）

③学力向上対策協議会提言書に基づく小中重点実践事項の実施

イ コミュニケーション力・発信力の定義づけ

(2) 心プロジェクト

ア 学ぶ意義や目的を見いだすキャリア教育の充実

①小中系統立てたキャリアパスポートの改善及び活用

②小中系統立てた総合的な学習の時間の見直し

イ 意識調査や i-check 等の実施、集計、分析

(3) つながるプロジェクト

ア 保、小、中、地域、家庭との連携

①保、小、中連携した基本的生活習慣の定着（「新すまいる大作戦」）

②学校運営協議会を中心とした地域との連携

イ 学年の実態に応じたコミュニケーション活動の充実（小学校）

6 目指す成果【検証方法】

- 自己肯定感を高めることで、自他を大切にできる心を育成するとともに、夢、目標を持ち、実現に向かって学び続ける児童生徒の育成を目指す。

【i-check 学力テスト、児童生徒や教師の意識調査】

## 7 研究実施の実際

| 時 期 (月) | 実施内容   |
|---------|--|
| 4 月     | 第 1 回小中合同研修 (昨年度の活動報告、今年度の方向性の確認)  |
| 7 月     | 小学校大研① (中学校職員 5 名参加)   |
| 7 月     | 中学校から小学校への乗り入れ授業 (音楽)  |
| 8 月     | 第 2 回小中合同研修 (熊本大学 菊池哲平氏の講話、部会別研修)  |
| 9 月     | 中学校大研①   |
| 10 月    | 第 3 回小中合同研修 (中学校大研②、部会別研修)   |
| 1 月     | 芦北町指定「英語教育」研究推進校発表会 (中間発表)<br>田浦小学校で実施：小学校 3 年外国語に中学校英語教諭が参加<br>中学校職員も全員参観 |
| 1 月     | 中学校から小学校への乗り入れ授業 (図画工作)  |
| 2 月     | 第 4 回小中合同研修 (本年度の反省と来年度の計画)  |

## 8 町村教育委員会の取組の実際

- ・芦北町教育委員会指導主事の合同研修会及び研究推進委員会への参加及び校長、教頭、研究主任との協議、意見交換
- ・公開授業に向けた事前の授業参観及び授業者への指導助言
- ・構想案、リーフレットへの指導、助言
- ・1月24日(金)の公開授業に向け事前の会場確認及び当日の運営サポート (教育委員会から4名参加)

## 9 研究の成果【検証方法】

- (1) 自己肯定感を高める授業の工夫・改善
  - ①「教科の内容が理解できる」：91% (小) 90% (中) 【児童生徒アンケート】
  - ②「夢中になった、勉強がおもしろいと思った、やる気が出たという記憶に残っている授業がある」：△66.7% (県 68.2%) (小5) △64.0% (県 65.8%) (小6)  
▲43.5% (県 63.0%) (中1) ○68.4% (県 58.7%) (中2)
- (2) 学ぶ意義や目的を見いだすキャリア教育の充実
  - ①小中連携して、キャリアパスポートの記入内容等の見直しを図り、活用時期をそろえることができた。
- (3) 保、小、中、地域、家庭との連携：「新すまいる大作戦」の取組における成果
  - ①保、小、中で時期をそろえて実施したことで、家庭への意識づけができた。
    - ・メディアの時間を運動や勉強に使えた。【児童感想】
    - ・メディアの時間を少しでも減らせるように読書をたくさんしたい。【生徒感想】
    - ・スマホの時間が減って、早めに寝ることができた。【生徒感想】
    - ・以前に比べるとメディアの時間が減り、読書や勉強をする時間が増えました。【保護者感想】
  - ②「新すまいる大作戦」期間に、メディア使用の時間に改善が見られた生徒：55% (中学生)

## 10 研究の課題と今後の展望

- (1) 今年度の課題
  - ・研究主題や方向性について、小中合同での研究推進委員会を開催するなど、共通理解を図るための細かい打合せが必要であった。
  - ・各プロジェクトの会議や進捗状況の周知方法などの確認が不足していた。
  - ・各プロジェクトで取り組み、成果につながっている取組もあるが、共通理解が図られなかったところがあり、結果の検証が必要である。
- (2) 今後の展望
  - ・小中合同の研究推進委員会及び、プロジェクト会議の計画的な実施
  - ・小中合同研修会の実施
  - ・今年度の課題を検証した上でのプロジェクトの整理と取組内容の精選

## 11 研究成果の普及

- ・リーフレット作成 (令和6年度)
- ・小学校での公開授業：芦北町教育委員会指定「英語教育」研究推進校研究発表会 (小学校3年外国語の授業に中学校英語教諭が参加)